

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
周産期診断治療論	1	後期	2	講義 30時間
担当教員	大塚伊佐夫、古澤嘉明、門岡みずほ、末光徳匡、三谷尚弘、松浦拓人、櫻井基一郎、櫻井裕子			
授業概要	妊娠期、分娩期、新生児に起こりやすい異常とその病態と診断、異常への対応や治療について学ぶ。また、手術療法及び、薬物治療に使用される医薬品について、基礎的な知識と薬理作用・用法用量・副作用・注意事項などについて学ぶ。更に、母乳育児と薬物使用についても理解を深める。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠期、分娩期、新生児に起こりやすい異常とその病態と診断、異常への対応や治療を理解する。 2. 周産期における婦人科合併症の診断・治療について理解する。 3. 薬物治療に使用される医薬品と避妊薬について、基礎的な知識と薬理作用・用法用量・副作用・注意事項などについて理解する。 4. 薬物の妊婦や胎児、及び母乳への影響について理解する。 			
履修条件	特になし			
授業計画	回	内容	担当教員	
	1	妊娠期のスクリーニング：妊娠初期・中期	末光	
	2	妊娠期のスクリーニング：妊娠後期	門岡	
	3	妊娠期に起こりやすい異常の病態と診断、異常への対応・治療 (流産、切迫流産、妊娠貧血等)	門岡	
	4	妊娠期に起こりやすい異常の病態と診断、異常への対応・治療 (妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病等)	門岡	
	5	妊娠期に起こりやすい異常の病態と診断、異常への対応・治療 (胎児機能不全等)	末光	
	6	分娩異常の病態と診断・治療概要(前置胎盤、常位胎盤早期剥離等)	三谷	
	7	分娩異常の病態と診断・治療概要 (誘発・促進分娩、分娩時出血、分娩時裂傷等)	末光	
	8	分娩異常の病態と診断・治療概要(吸引分娩・鉗子分娩、会陰縫合等)	末光	
	9	分娩異常の病態と診断・治療概要(帝王切開、無痛分娩等)	松浦	
	10	正期産児の疾患	櫻井(基)	
	11	早産児の疾患	櫻井(裕)	
	12	周産期における婦人科合併症：病態	古澤	
	13	周産期における婦人科合併症：管理と治療	古澤	
	14	更年期・老年期女性の健康 (更年期障害、骨盤臓器脱、尿失禁、尿失禁 H、RT 療法等)	大塚	
	15	母乳育児と薬剤使用	門岡	
教科書	特に指定しない			
参考書	毎回の授業で、テーマに沿って提示する。			
評価方法・基準	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に対する準備状況や授業中の発言内容等による評価(30%) ・試験・レポート課題に対する成績(70%) 			
事前・事後学習	事前学習：次回の授業内容についての提示された資料やテキストを確認しておく(2時間)。事後学習：授業内容について復習を行い、理解を深める(1時間)。			
備考	特になし			